



科目名 (英) 学科・コース	医学英語 (Medical English) 視能訓練士科	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	岩渕 美嘉	
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30時間 2	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 3時限	
		【授業の学習内容と心構え】 医療現場では日常的に英単語、英略語が使われている。また外国人の増加に伴い、国際共通語である英語でコミュニケーションを取る場面も多くなり、英語の必要性は高まっている。視能訓練士として医療現場を経験した教員が、英文読解を通して眼科の知識を深めながら、現場で必要となる英単語や英会話を習得する授業を行う。						
【到達目標】 眼科に必要な専門英単語を覚え、英文読解を行いながら屈折異常・眼球運動・眼疾患についての理解を深める。 視力検査、視野検査など眼科検査を英語で行う際の表現を習得する。								
【使用教科書・教材・参考書】 Atlas of Strabismus / First Human Body Encyclopedia				【授業外における学習】 既習の屈折異常や眼球運動等についての内容となるので、該当箇所の眼科の知識を復習した上で授業に臨むこと				
回 1	【授業単元】 First Human Body Encyclopedia – Look out! 【授業形態】 講義 【到達目標】 英語で自己紹介ができるようになる。 眼の解剖の基本単語を覚え、英文読解に慣れる。	回 9	【授業単元】 Action of extraocular muscles 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼球の解剖に関する英単語を覚え、外眼筋についての理解を深める					
2	【授業単元】 First Human Body Encyclopedia – How we see 【授業形態】 講義 【到達目標】 視覚の仕組みについての基本単語を覚え、英文読解に慣れる	10	【授業単元】 Action of extraocular muscles 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼筋・眼球運動に関する英単語を覚え、外眼筋についての理解を深める					
3	【授業単元】 Refractive Errors 【授業形態】 講義 【到達目標】 屈折に関する英単語や英語表現を覚え、屈折異常についての理解を深める	11	【授業単元】 Monocular and binocular eye movement 【授業形態】 講義 【到達目標】 眼球運動に関する英単語を覚え、外眼筋についての理解を深める					
4	【授業単元】 Refractive Errors 【授業形態】 講義 【到達目標】 屈折に関する英単語や英語表現を覚え、屈折異常についての理解を深める	12	【授業単元】 Cover test for detection of heterotropia 【授業形態】 講義 【到達目標】 斜視に関する英単語を覚え、検査についての理解を深める					
5	【授業単元】 Refractive Errors 【授業形態】 講義 【到達目標】 屈折に関する英単語や英語表現を覚え、屈折異常についての理解を深める	13	【授業単元】 Glaucoma 【授業形態】 講義 / 動画視聴 【到達目標】 緑内障、視野検査に関する英単語を覚え、緑内障についての理解を深め、英語で視野検査ができるようになる					
6	【授業単元】 Refractive Errors / 視力検査の英語表現 【授業形態】 講義 / 英作文演習 / ペアワーク 【到達目標】 英語で視力検査を行うことができる	14	【授業単元】 Glaucoma 【授業形態】 講義 / 英作文演習 【到達目標】 緑内障、視野検査に関する英単語を覚え、緑内障についての理解を深め、英語で視野検査を出来るようになる					
7	【授業単元】 Refractive Errors / 視力検査の英語表現 【授業形態】 講義 / 英作文演習 / ペアワーク 【到達目標】 英語で視力検査を行うことができる	15	【授業単元】 定期試験・終了後の解答解説 【授業形態】 【到達目標】 後期授業の復習を行いながら、解答解説を行う。					
8	【授業単元】 中間試験・終了後の解答解説 【授業形態】 【到達目標】 前半の授業の復習を行いながら、解答解説を行う。	【評価について】 評価は、筆記試験で行う。授業で確認した専門知識の定着度、英文読解力、応用力を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計、100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						
【特記事項】 毎授業、眼科用語集と英和辞書を持参すること。								

科目名 (英)	内科学	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	関 玲子
	Internal Medicine						
学科・専攻	視能訓練士科	授業形態	講義	総時間(単位)	30時間(2)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
医療系大学で生化学、臨床検査学、薬理学、コミュニケーション学などを担当し、現在は「自己免疫疾患と代謝に関する分子の進化過程における進化」と「大規模健康診断データを用いた未病のシグナル」に関する研究、および薬剤師として総合内科・精神科・小児科・不妊治療などの調剤に携わっている教員が担当する。ここでは、医療人として理解しておくべき内科疾患の成り立ちや病態についての講義を行う。これに関連する国家試験に向けての知識を十分につけ、さらには他の医療職とも疾患情報を共有でき、目を含めた健康状態を自ら説明できる力を身につけてほしい。							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な内科疾患名とそれに関わる臓器や生理活性物質を理解する。</li> <li>・疾患の成り立ちとそれに関わる代謝を理解する。</li> <li>・疾患に関する検査値や治療法について理解する。</li> <li>・疾患に起因する目にかかる状態について自力で説明ができる。</li> </ul>							
【使用教科書・教材・参考書】 各講義で資料を配布する。 参考書 「なるほどなとく！ 内科学」（南山堂） 「疾病論」人間が病気になるということ 第2版（医学書院）				【授業外における学習】 予習として関連する臓器について解剖学の復習をしておくこと。 講義内での疑問や理解ができなかったことは、メモにして提出すること。			
回	授業概要	回	授業概要				
1	<p>【授業単元】 内科学概要</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>代表的な内科疾患の名前を挙げられる。</p> <p>内科疾患の主な症候を説明できる。</p> <p>診断と治療の流れについて説明できる。</p>	9	<p>【授業単元】 自己免疫疾患1(敗血症・膠原病)</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>初期免疫と適応免疫について説明ができる。</p> <p>自己抗体について説明ができる。</p> <p>疾患に関する症状、診断基準について説明ができる。</p>				
2	<p>【授業単元】 糖尿病</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>疾患に関わる臓器とその異常について説明できる。</p> <p>疾患に関連するホルモン、代謝について説明できる。</p> <p>疾患に関する症状、診断基準について説明できる。</p>	10	<p>【授業単元】 血液系疾患(貧血、造血器腫瘍、出血・血栓症)</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>血液細胞とその分化について説明ができる。</p> <p>凝固線溶系とその異常について説明ができる。</p> <p>疾患に関する症状について説明ができる。</p>				
3	<p>【授業単元】 脂質代謝異常症</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>疾患に関わる臓器とその異常について説明できる。</p> <p>血清脂質とその代謝について説明できる。</p> <p>疾患に関する症状、診断基準について説明できる。</p>	11	<p>【授業単元】 内分泌・ホルモン1(内分泌概論)</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>ホルモンの分類と構造について説明できる。</p> <p>代表的な内分泌器官について説明できる。</p> <p>ホルモンの合成・分泌調節機構について説明できる。</p>				
4	<p>【授業単元】 腎臓の病気(糖尿病性腎症・ネフローゼ症候群)</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>腎臓の仕組み・機能とその異常について説明できる。</p> <p>疾患に関する症状、診断基準が説明できる。</p>	12	<p>【授業単元】 内分泌・ホルモン2(甲状腺・副腎疾患)</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>疾患に関わる臓器とその異常について説明できる。</p> <p>疾患に関連するホルモン、代謝について説明できる。</p> <p>疾患に関する症状、診断基準について説明できる。</p>				
5	<p>【授業単元】 循環器1(高血圧・不整脈)</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>疾患に関わる臓器とその異常について説明できる。</p> <p>血圧調節、刺激電動系について説明できる。</p> <p>疾患に関する症状、診断基準について説明できる。</p>	13	<p>【授業単元】 神経系疾患(ALS、脳内出血、パーキンソン病)</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>運動系・感覚系・自律神経系について説明できる。</p> <p>疾患に関する症状、診断基準について説明できる。</p>				
6	<p>【授業単元】 循環器2(虚血性心疾患、心不全)</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>疾患に関わる臓器とその異常について説明できる。</p> <p>心ポンプ機能と血液の循環について説明できる。</p> <p>疾患に関する症状、診断基準について説明できる。</p>	14	<p>【授業単元】 悪性腫瘍</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>細胞分裂とその異常について説明ができる。</p> <p>疾患に関する症状、診断基準について説明できる。</p>				
7	<p>【授業単元】 感染症</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>代表的な微生物と感染症の種類について説明ができる。</p> <p>生体防御反応について説明ができる。</p> <p>疾患に関する症状、予防策について説明できる。</p>	15	<p>【授業単元】 定期試験(5択・筆記)・解答解説</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p> <p>各疾患に関連する臓器や疾病的成り立ちについて、提出したレポートをもとに知識を定着させ、自力で答えられる。</p>				
8	<p>【授業単元】 呼吸器(喘息、慢性閉塞性肺疾患)</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p> <p>疾患に関わる臓器とその異常について説明できる。</p> <p>ガス交換、呼吸機能について説明できる。</p> <p>疾患に関する症状、診断基準について説明できる。</p>		<p>【評価方法について】</p> <p>・評価は講義ごとの課題と筆記試験で合計100点として行う。</p> <p>・配点は以下のとおりである。</p> <p>　課題：各講義ごとに3点、合計42点(14回分) 　筆記試験：58点</p> <p>・課題提出期限は厳守であり、遅れた場合は未提出として扱う。</p> <p>・評価は学則規定に準ずる。</p>				
【特記事項】 2コマを連続して行うため、講義日の確認をすること。							

科目名 (英)	医療現場学Ⅱ (Orthoptist and Medical Setting Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	小川 久実	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日	
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】								
視能訓練士として臨床経験のある教員が授業を担当する。3年次の臨地実習や、視能訓練士として将来臨床現場に立ったときに必要な知識を身に着ける。								
【到達目標】								
①チーム医療における視能訓練士の役割を説明することができる。 ②医療従事者として現場で役立つ知識を具体的に述べることができる。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
各講師でレジュメなどの配布があります。				眼科以外の専門領域の授業があるので、分からぬ専門用語については授業後に復習しておくこと。				
回 授業概要				回 授業概要				
1 【授業単元】チーム医療 【授業形態】講義 【到達目標】 看護師と視能訓練士の役割を関係づけることができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
2 【授業単元】チーム医療 【授業形態】講義 【到達目標】 看護師と視能訓練士の役割を関係づけることができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
3 【授業単元】チーム医療 【授業形態】講義 【到達目標】 看護師と視能訓練士の役割を関係づけることができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
4 【授業単元】チーム医療 【授業形態】講義 【到達目標】 言語聴覚士と視能訓練士の役割を関係づけることができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
5 【授業単元】チーム医療 【授業形態】講義 【到達目標】 言語聴覚士と視能訓練士の役割を関係づけることができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
6 【授業単元】チーム医療 【授業形態】講義 【到達目標】 臨床工学技士と視能訓練士の役割を関係づけることができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
7 【授業単元】チーム医療 【授業形態】講義 【到達目標】 臨床工学技士と視能訓練士の役割を関係づけることができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
8 【授業単元】定期試験・解説 【授業形態】 【到達目標】 レポートを作成し、提出できる。				【評価方法について】 評価は、レポート提出で行う。授業内で確認した専門的な知識の理解を確認する。 定期試験のレポートについては「多職種連携をどう考えるか」をテーマにA4用紙1枚にまとめて提出する(8コマ目に実施)。				
【特記事項】 将来的に視能訓練士と関わりが深い職種の授業内容なので、積極的な態度で参加してください。								

科目名 (英)	視覚障害者リハビリテーション (Visual Rehabilitation)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	中谷 数一
学科・コース	視能訓練士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 1・2時限
【授業の学習内容と構え】							
障害とは何か、を社会モデルで捉え、必要なリハビリアプローチ(治療的、適応的、環境改善的、心理的)を学び、視覚障害者の自立、社会参加を助ける視能訓練士になる授業を行う。視覚障害当事者として自ら体験し学んだリアルを伝えたい。覚えるより考える姿勢での参加を願う。							
【到達目標】							
視覚障害者リハビリテーションにおける視能訓練士の役割を学び、医療から福祉への架け橋の役割を担える視能訓練士となる。 従来の視覚リハビリテーションのみならずデジタルロービジョンケアを学び伝えることができるようになる。 視覚障害者の心理を学び患者や家族に寄り添える視能訓練士になる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ポイントマスター ロービジョンケア外来ノート				【授業外における学習】 なし			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】 障害とは (障害平等研修) 【授業形態】 講義と演習  【到達目標】  障害について知る。障害とは何か、どこに障害があるのか、社会モデルの視点で分析し説明することができる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】 視覚障害者福祉の法・制度とサービス 【授業形態】 講義  【到達目標】  視覚障害者の自立生活・社会参加に必要な福祉サービスや社会の合理的配慮提供について、どのような法的・制度的仕組みでサポートされているのか、場面ごとに具体的な例を挙げて説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】 視覚リハビリテーション 【授業形態】 講義  【到達目標】  視覚障害者が自立した生活を送るための課題解決策や軽減策、訓練手法(補助具の活用、代行技術の習得等)について、目的ごとに説明できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】 視覚リハビリテーション演習(点字) 【授業形態】 講義・演習  【到達目標】  点字の成り立ち、構成を説明できる。読み書きを演習し、簡単な文章を読み、簡単な単語を点字で書くことができる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】 情報保障とデジタルロービジョンケア1 【授業形態】 講義・演習  【到達目標】  視覚障害は情報障害である。情報保障(知る権利の保護と意思疎通手段の確保)を担保するために必要な配慮と方法を場面ごとに説明できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】 情報保障とデジタルロービジョンケア2 【授業形態】 講義・演習  【到達目標】  視覚に頼らないiPhone操作を学び、視覚障害者の「分かる、できる」の可能性を広げる。視覚障害リハビリにおけるICT機器の大きな潜在性・将来性を説明できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】 視覚障害者の心理と受容・眼科外来における配慮 【授業形態】 講義・演習  【到達目標】  視覚障害者の心理・障害受容の過程につき、それぞれの段階の特徴を、支援者の関わり方を含めて、説明できる。 眼科外来で必要な配慮(視覚情報提供と移動介助)を、場面ごとに説明できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】			【評価について】 定期試験(筆記試験) 100点 授業内で確認した専門的な知識の理解を確認する。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	関係法規 (Related Laws and Regulations)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	上本 昌昭	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 2時限	
<b>【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】</b>								
大学や専門学校において、法学概論や憲法といった「基礎法学」や「法解釈学」の教育に携わり、「医事法」を研究する教員が、患者の権利や利益を保護し尊重するための医療分野における法制度の知識と、現実問題へ応用できる力を習得する授業を行う。 医療従事者として業務に就くために必要な内容となるので、患者の権利や利益はいかにして守られているかを考えながら受講することを望む。授業内で習得した知識をつかって現実問題を考える演習を行うため、積極的な意見表明を求める。								
<b>【到達目標】</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・視能訓練士として業務を行う際に必要とされる視能訓練士法その他の医事法規の基本概念を説明できる。</li> <li>・患者のQOLを高め、社会復帰を支援する仕組み、医療制度について説明できる。</li> <li>・関連する法令や制度を通じて、多職種の専門家や行政機関などと協同できる。</li> </ul>								
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b>				<b>【授業外における学習】</b>				
教科書は指定しない。各回レジュメを配布する。				法制度は現実社会と密接に関連しているので、社会に関心をもち時事問題に触れる。また、授業後は専門用語の内容を反芻し、それを理解し記憶するように努める。				
<b>回 授業概要</b>				<b>回 授業概要</b>				
1	<b>【授業単元】</b> 法とは何か <b>【授業形態】</b> 講義 <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会規範の要素を列挙し、機能を説明できるようになる。</li> <li>・社会規範と法(規範)との違いを説明できるようになる。</li> <li>・「法律」「政令」「省令」「条例」の違いを説明できる。</li> </ul>			9	<b>【授業単元】</b> 生存権と社会保障 <b>【授業形態】</b> 講義 <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・憲法25条について暗唱できる。</li> <li>・憲法25条を実現する制度を分類できるようになる。</li> <li>・日本の公衆衛生機構について説明できる。</li> </ul>			
					<b>【授業単元】</b> 視能訓練士法① <b>【授業形態】</b> 講義 <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視能訓練士になぜ法学の知識が必要か説明できる。</li> <li>・視能訓練士法の沿革や目的について説明できる。</li> <li>・視能訓練士の定義、各種手続きについて説明できる。</li> </ul>			
2	<b>【授業単元】</b> 視能訓練士法② <b>【授業形態】</b> 講義 <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「診療の補助」とは何か説明できる。</li> <li>・視能訓練士の業務について説明できる。</li> <li>・視能訓練士に課された義務について説明できる。</li> </ul>			10	<b>【授業単元】</b> 保健医療① <b>【授業形態】</b> 講義 <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「医療」とは何かを説明できる。</li> <li>・保健医療制度の意義について説明できる。</li> <li>・日本の医療提供施設の種類と機能について説明できる。</li> </ul>			
					<b>【授業単元】</b> 視能訓練士法③ <b>【授業形態】</b> 講義 <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法の特徴を説明できるようになる。</li> <li>・憲法で保障されている人権を列挙できるようになる。</li> <li>・医療と憲法がどのように関連するのか説明できる。</li> </ul>			
4	<b>【授業単元】</b> 日本国憲法 <b>【授業形態】</b> 講義 <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法の特徴を説明できるようになる。</li> <li>・憲法で保障されている人権を列挙できるようになる。</li> <li>・医療と憲法がどのように関連するのか説明できる。</li> </ul>			11	<b>【授業単元】</b> 保健医療② <b>【授業形態】</b> 講義 <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療法の内容について説明できるようになる。</li> <li>・医療安全を確保する仕組みについて説明できる。</li> </ul>			
					<b>【授業単元】</b> 医療関連職種 <b>【授業形態】</b> 講義 <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師法の内容を説明できる。</li> <li>・保健師助産師看護師法を説明できる。</li> <li>・その他の医療関連職種について説明できる。</li> </ul>			
5	<b>【授業単元】</b> 患者の権利① <b>【授業形態】</b> 講義 <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権保障と「患者の権利」の関係を説明できる。</li> <li>・インフォームドコンセントとは何か説明できる。</li> <li>・臓器移植法の概要を理解している。</li> </ul>			12	<b>【授業単元】</b> 医療保険制度 <b>【授業形態】</b> 講義 <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「保険」によってどのように生活が保障されるか説明できる。</li> <li>・医療サービスを保障する仕組みについて説明できる。</li> <li>・介護保険制度の概要を説明できる。</li> </ul>			
					<b>【授業単元】</b> 患者の権利② <b>【授業形態】</b> 講義 <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奴隸的拘束の禁止の意味が説明できるようになる。</li> <li>・人権保障と「医療拘束」の関係を説明できる。</li> </ul>			
6	<b>【授業単元】</b> 患者の権利③ <b>【授業形態】</b> 講義 <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・守秘義務の背景にある患者のプライバシー権を説明できる。</li> <li>・医療情報に関する各種の法律等の内容を説明できる。</li> <li>・これまでに扱った内容を振り返り、定着を確認する。</li> </ul>			13	<b>【授業単元】</b> 全体の振り返り <b>【授業形態】</b> 講義 <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学習した内容を振り返り、想起することができる。</li> </ul>			
					<b>【授業単元】</b> 定期試験・終了後の解答解説 <b>【授業形態】</b> <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験で50点以上を獲得する。</li> </ul>			
7	<b>【授業単元】</b> 中間試験・終了後の解答解説 <b>【授業形態】</b> <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学習した内容を振り返り、想起することができる。</li> <li>・中間試験で35点以上を獲得する。</li> </ul>			14	<b>【評価方法について】</b> 評価は筆記試験で行う。授業で学習した専門用語、法制度の理解、定着度を確認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。テストは「語群穴埋め」と「自説展開」を求めるものである。「自説展開」は、誤字脱字、呼応関係などの日本語表現の誤り、法学的知識を前提としない論述について減点の対象とする。評価は、学則規定に準ずる。			
					<b>【特記事項】</b> 国試受験までは時間があるので、この授業を国試対策というよりも、視能訓練士として必要な法学的知識の概要を知るものと位置づけてもらいたい。			

科目名 (英)	視覚生理学実習 (Practical Training in Visual Physiology)	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	常盤 純子・近藤 知絵美 露無 陽子
		授業形態	実習	総時間 (単位)	60時間 (2)	開講区分	前期
学科・専攻	視能訓練士科					曜日・時間	金曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・構え】							
視能訓練士としての現場経験を重ねた教員が、視野検査、色覚検査、眼底検査、超音波検査、電気生理学検査の意義・目的と各検査法についての原理・評価法を教える。豊富な臨床経験を活かし、患者への誘導・検査説明など外来で必要な接遇も含めて丁寧に指導する。1年次に学習した視覚生理学の知識が検査の原理・手技・評価方法として、どのように使用されているかを考えながら取り組む事が大切である。特に視野・色覚・電気生理学的検査の内容をしっかりと復習して臨んで欲しい。							
【到達目標】							
視野検査、色覚検査、眼底検査、超音波検査、電気生理学的検査の意義・目的を学び、各検査法について原理・評価法を理解し、実践できる。							
特に視野検査においては下記の2点を意識して取り組み、身につけることができる。							
①3年次の臨地実習に向けて「ハンフリー自動視野計」の患者対応(誘導・検査説明)、検査手技・評価方法を習得する。							
②視能訓練士として必要不可欠な「ゴールドマン視野計」の対象疾患、原理、基本の検査手技を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
[教科書] 眼科検査ガイド、視能学、現代の眼科学				1年次に学んだ視覚生理学Ⅰの内容を事前に復習しておくこと。			
[教材・参考書]配布資料							
回 授業概要				回 授業概要			
1・2	【授業単元】 視野検査、超音波検査、細隙灯顕微鏡	【授業形態】 実習		【授業単元】 眼底写真、光干渉断層計(OCT)、視野検査演習		【授業形態】 実習	
	【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する	①ゴールドマン視野検査 ②ハンフリー視野検査 ③超音波検査(Aモード・Bモード)、細隙灯顕微鏡		【到達目標】 眼底検査、正常視野の測定法を習得する		①眼底写真、光干渉断層計(OCT) ②ハンフリー視野検査実技チェック ③ゴールドマン視野検査演習	
	【授業単元】 視野検査、超音波検査、細隙灯顕微鏡	【授業形態】 実習		【授業単元】 眼底写真、光干渉断層計(OCT)、視野検査演習		【授業形態】 実習	
3・4	【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する	①ゴールドマン視野検査 ②ハンフリー視野検査 ③超音波検査(Aモード・Bモード)、細隙灯顕微鏡		【到達目標】 眼底検査、正常視野の測定法を習得する		①眼底写真、光干渉断層計(OCT) ②ハンフリー視野検査実技チェック ③ゴールドマン視野検査演習	
	【授業単元】 視野検査、超音波検査、細隙灯顕微鏡	【授業形態】 実習		【授業単元】 眼底写真、光干渉断層計(OCT)、視野検査演習		【授業形態】 実習	
	【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する	①ゴールドマン視野検査 ②ハンフリー視野検査 ③超音波検査(Aモード・Bモード)、細隙灯顕微鏡		【到達目標】 眼底検査、正常視野の測定法を習得する		①眼底写真、光干渉断層計(OCT) ②ハンフリー視野検査実技チェック ③ゴールドマン視野検査演習	
5・6	【授業単元】 視野検査、超音波検査、細隙灯顕微鏡	【授業形態】 実習		【授業単元】 色覚検査、視野検査演習		【授業形態】 実習	
	【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する	①ゴールドマン視野検査 ②ハンフリー視野検査 ③超音波検査(Aモード・Bモード)、細隙灯顕微鏡		【到達目標】 色覚検査法を身につける、視野検査の実技チェックを受ける		①色覚検査 ②ハンフリー視野検査演習 ③ゴールドマン視野検査実技チェック	
	【授業単元】 視野検査演習、電気生理検査	【授業形態】 実習		【授業単元】 色覚検査、視野検査演習		【授業形態】 実習	
7・8	【到達目標】 基本的な検査方法を正しく行うことができる	①ゴールドマン視野検査演習 ②ハンフリー視野検査(異常視野) ③網膜電図(ERG)		【到達目標】 色覚検査法を身につける、視野検査の実技チェックを受ける		①色覚検査 ②ハンフリー視野検査演習 ③ゴールドマン視野検査実技チェック	
	【授業単元】 視野検査演習、電気生理検査	【授業形態】 実習		【授業単元】 色覚検査、視野検査演習		【授業形態】 実習	
	【到達目標】 基本的な検査方法を正しく行うことができる	①ゴールドマン視野検査演習 ②ハンフリー視野検査(異常視野) ③網膜電図(ERG)		【到達目標】 色覚検査法を身につける、視野検査の実技チェックを受ける		①色覚検査 ②ハンフリー視野検査演習 ③ゴールドマン視野検査実技チェック	
9・10	【授業単元】 視野検査演習、電気生理検査	【授業形態】 実習		【授業単元】 色覚検査、視野検査演習		【授業形態】 実習	
	【到達目標】 基本的な検査方法を正しく行うことができる	①ゴールドマン視野検査演習 ②ハンフリー視野検査(異常視野) ③網膜電図(ERG)		【到達目標】 色覚検査法を身につける、視野検査の実技チェックを受ける		①色覚検査 ②ハンフリー視野検査演習 ③ゴールドマン視野検査実技チェック	
	【授業単元】 視野検査演習、電気生理検査	【授業形態】 実習		【授業単元】 色覚検査、視野検査演習		【授業形態】 実習	
11・12	【到達目標】 基本的な検査方法を正しく行うことができる	①ゴールドマン視野検査演習 ②ハンフリー視野検査(異常視野) ③網膜電図(ERG)		【到達目標】 色覚検査法を身につける、視野検査の実技チェックを受ける		①色覚検査 ②ハンフリー視野検査演習 ③ゴールドマン視野検査実技チェック	
	【授業単元】 中間試験/特殊な視野検査	【授業形態】 講義		【授業単元】 自由練習		【授業形態】 実習	
	【到達目標】 ①中間試験(筆記)、解答解説ができる ②中心視野計・中心フリッカーチェック等について基本的な検査法を述べられる	【到達目標】 班ごとに各検査法の説明・手技を繰り返し実習する。 病院検査室をイメージし患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。		【到達目標】 班ごとに各検査法の説明・手技を繰り返し実習する。 病院検査室をイメージし患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。		【到達目標】 病院検査室をイメージし患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。	
13・14	【授業単元】 中間試験/特殊な視野検査	【授業形態】 講義		【授業単元】 定期試験・解答解説		【授業形態】 実習	
	【到達目標】 ①中間試験(筆記)、解答解説ができる ②中心視野計・中心フリッカーチェック等について基本的な検査法を述べられる	【到達目標】 視覚生理学分野に関する基礎的な臨床知識が定着している。 前期で学んだ検査方法が習得できている。 筆記試験は別時間を設け行う。		【到達目標】 視覚生理学分野に関する基礎的な臨床知識が定着している。 前期で学んだ検査方法が習得できている。 筆記試験は別時間を設け行う。		【到達目標】 視覚生理学分野に関する基礎的な臨床知識が定着している。 前期で学んだ検査方法が習得できている。 筆記試験は別時間を設け行う。	
	【授業単元】 眼底写真、光干渉断層計(OCT)、視野検査演習	【授業形態】 実習		【評価方法について】		【評価方法について】	
15・16	【到達目標】 眼底検査、正常視野の測定法を習得する	①眼底写真、光干渉断層計(OCT) ②ハンフリー視野検査実技チェック ③ゴールドマン視野検査演習		【中間試験】(40点満点) 実施方法:筆記試験(課題提出を含む)		【定期試験】(100点満点)※6割換算する。 実施方法:筆記試験60点分、実技試験40点分で評価する。(課題提出を含む)	
	【授業単元】 眼底写真、光干渉断層計(OCT)、視野検査演習	【授業形態】 実習		【定期試験】(100点満点)※6割換算する。 実施方法:筆記試験60点分、実技試験40点分で評価する。(課題提出を含む)		【定期試験】(100点満点)※6割換算する。 実施方法:筆記試験60点分、実技試験40点分で評価する。(課題提出を含む)	
	【到達目標】 眼底検査、正常視野の測定法を習得する	①眼底写真、光干渉断層計(OCT) ②ハンフリー視野検査実技チェック ③ゴールドマン視野検査演習		【評価方法について】		【評価方法について】	

科目名 (英)	眼科薬理学 I (Ophthalmic Pharmacology I)	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	小坂 好男	
		授業形態	講義	総時間(単位)	30時間(2)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 2時限目	
【授業の学習内容と心構え】								
大学病院そして眼科専門病院に勤務した薬剤師として、全ての患者さんに適正な薬物療法を提供・実践してきた経験を生かして、視能訓練士が扱う医薬品の医療安全確保のための知識を養うべく学習を講義します。耳学ばかりではなく、時には実際に手に取り身体で覚える授業を取り入れる予定です。								
【到達目標】								
薬理学とは何を研究する学問か、また投与された薬物がどの様に作用して効果が発現するのか理解できる								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
点眼薬クリニカルブック、講義用レジュメ								
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】薬理学とは 【授業形態】講義 パワーポイント使用 PC 【到達目標】 薬理学とは何を研究する学問か、また投与された薬物が最終的にどの様に作用し発現されるかが理解できる	9	【授業単元】ステロイドホルモン剤・免疫抑制剤 【授業形態】講義 パワーポイント使用 PC 【到達目標】 (ステロイドホルモン剤・免疫抑制剤について)の種類とその違い(作用機序など)・注意すべき点が言える					
2	【授業単元】自律神経、点眼剤の問題点他 【授業形態】講義 パワーポイント使用 PC 【到達目標】 生命維持に大切な自律神経の構成と刺激作用の違いが言える。 点眼薬の仕組み・目的・種類・組成が言える。	10	【授業単元】抗アレルギー薬及び非ステロイド系抗炎症薬 【授業形態】講義 パワーポイント使用 PC 【到達目標】 アレルギーの機序、マストセルについて理解出来非ステロイド系抗炎症薬の機序が言える					
3	【授業単元】自律神経薬・点眼試験 【授業形態】講義 パワーポイント使用 PC 【到達目標】 検査薬・治療薬に使用される瞳孔薬の種類とその違い(作用機序など)・注意すべき点が言える。点眼試験の目的・種類・が言える	11	【授業単元】緑内障の概念・定義・発現機序・分類 【授業形態】講義 パワーポイント使用 PC 【到達目標】 緑内障とはどの様な疾患であるかきちんと説明できる					
4	【授業単元】検査薬と瞳孔括約筋、瞳孔散大筋の関係 【授業形態】講義 パワーポイント使用 PC 【到達目標】 検査薬剤は瞳孔括約筋、瞳孔散大筋の刺激なのか抑制なのか理解できる	12	【授業単元】緑内障の治療・薬物療法の眼圧下降機序 【授業形態】講義 パワーポイント使用 PC 【到達目標】 現在使用されている緑内障治療薬の種類とその違い(作用機序など)が言える					
5	【授業単元】局所麻酔薬・角膜保護薬・治癒促進薬 【授業形態】講義 パワーポイント使用 PC 【到達目標】 末梢神経系作用薬(局所麻酔薬)、角膜保護薬、治癒促進薬の種類とその違い(作用機序など)・注意すべき点が言える	13	【授業単元】抗がん剤、眼精疲労・白内障治療薬 【授業形態】講義 パワーポイント使用 PC 【到達目標】 抗癌薬、眼精疲労治療薬、網膜循環改善薬の種類とその違い(作用機序など)・注意すべき点が言える					
6	【授業単元】眼感染症・治療薬 【授業形態】講義 パワーポイント使用 PC 【到達目標】 眼感染症を理解し抗生物質の種類、作用点の違い(作用機序など)・注意すべき点が言える	14	【授業単元】ビタミン剤・手術用剤 【授業形態】講義 パワーポイント使用 PC 【到達目標】 ビタミン薬・手術用剤について述べることが出来る					
7	【授業単元】抗真菌・寄生虫薬・抗ウイルス薬 【授業形態】講義 パワーポイント使用 PC 【到達目標】 抗真菌・寄生虫薬・抗ウイルス薬のそれぞれの違い(作用機序など)について理解でき、治療薬に関して理解できる	15	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 定期試験、自律神経を中心とした5択・穴埋め問題、筆記試験60分					
8	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 中間試験、自律神経を中心とした5択・穴埋め問題 筆記試験60分	【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法:筆記試験 定期試験(60点満点) 実施方法: 筆記試験						
【特記事項】								

科目名 (英)	視能検査学Ⅰ (Orthoptic Examinations I)	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	小川 久実	
		授業形態	講義	総時間(単位)	30時間(2)	開講区分曜日・時間	後期 木曜日 1時限	
【授業の学習内容と心構え】								
視能訓練士として実務経験を積んできた教員が眼鏡処方の実際等を教える。 レンズの効果について学ぶ。プリズム効果や芯とり点間距離の単元では計算が必要となる。 四則演算の復習をして授業に臨むこと。公式を図とともに理解すると記憶に残しやすくなる。								
【到達目標】								
眼科における眼鏡処方に必要な知識を習得する。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
視能学、屈折異常とその矯正								
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】屈折の復習 調節の復習 【授業形態】講義 【到達目標】  調節力とスマートのコノイド(復習)	9	【授業単元】膜プリズム処方 【授業形態】講義 【到達目標】  膜プリズムの貼り方を理解する。 プリズム合成が正しく出来るようになる。					
2	【授業単元】眼鏡処方(成人:単焦点) 【授業形態】講義 【到達目標】  眼鏡処方(成人)に必要な知識を理解する。 適切なレンズ度数を選択できる。	10	【授業単元】膜プリズム処方 【授業形態】講義 【到達目標】  膜プリズムの貼り方を理解する。 プリズム合成が正しく出来るようになる。					
3	【授業単元】眼鏡処方(成人:単焦点) 【授業形態】講義 【到達目標】  適切なコンタクト度数を選択できる。 レンズ拡大縮小効果を理解し、不等像視が見え方に及ぼす影響を想定できる。	11	【授業単元】プリズムと網膜像 【授業形態】講義 【到達目標】  プリズムによる網膜像のずれを正しく計算できる。					
4	【授業単元】眼鏡処方と芯とり点間距離 【授業形態】講義 【到達目標】  軸傾角と瞳孔間距離を理解する。 芯とり点間距離を理解し、適切な処方が出来るようになる。	12	【授業単元】眼疾患と屈折 【授業形態】講義 【到達目標】  眼疾患、と屈折の関係を理解する。					
5	【授業単元】眼鏡処方とプリズム効果 【授業形態】講義 【到達目標】  眼鏡にみられるプリズム効果を理解するとともに、プリズム効果を利用した症例について考えられるようになる。	13	【授業単元】眼鏡処方の実際 【授業形態】講義 【到達目標】  Knappの法則 見かけの調節力 Abbe数					
6	【授業単元】眼鏡処方(成人:遠近両用) 【授業形態】講義 【到達目標】  遠近両用眼鏡の種類を知る。 明視距離を考えた処方が出来るようになる。	14	【授業単元】復習 【授業形態】講義 【到達目標】  まとめ					
7	【授業単元】眼鏡処方(学齢期・乳児) 【授業形態】講義 【到達目標】  眼鏡処方(学齢期・乳児)に必要な知識を理解する。 眼鏡のフィッティングについて知る。 治療用眼鏡の適応を理解する。	15	【授業単元】復習と定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】  まとめ(前期・後期) 定期試験					
8	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】  中間試験		【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法:筆記試験 定期試験(60点満点:中間試験の範囲も含みます) 実施方法:筆記試験 授業内で確認した専門的な知識の理解を確認する。 評価は学則規定に準ずる。					
【特記事項】								



科目名 (英)	生理光学実習 II (Practical Training in Physiologic Optics II)	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	利満 昭子・越後貴 滋子 太田 幸代	
		授業形態	実習	総時間(単位)	60時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 3~4時限	
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】								
視能訓練士として臨床現場で経験を積んだ現役の視能訓練士複数名により、チームごとに分かれ指導を行う。 臨床の現場で求められる検査の理論、技術、また医療従事者と患者間のコミュニケーションの取り方を学ぶ。 疾患の診断・治療に与える検査結果の重要性を理解し、責任ある検査を出せる視能訓練士を目指す。 チームごとの実習のため遅刻や欠席がないよう、時間・体調管理を怠らず、配布されたレジュメの見直しなど、積極的に学ぶ姿勢を身に付ける。								
【到達目標】								
2月に実施される外部実技試験に合格し、3年時の臨床実習に出られる技術を身に付ける。 眼鏡処方や視野検査をメインに、今まで学習した検査の総まとめを行う。 臨時実習に向けて眼科外来に立つためのマナー、課される実習課題やレポートなど提出期限を守ることができる。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
眼科検査ガイド、視能学、視能矯正学、配布レジュメ				配布されたレジュメを読み返す。 検査ごとのファイルを作成し、数多くの検査について調べやすい工夫をする				
回	授業概要	回	授業概要					
1・2	【授業単元】 3グループに分かれ、講義、演習を行う  【授業形態】 実習  【到達目標】 ①眼鏡処方 ②視野検査(HFA・GP) ③自覚的屈折検査 ④その他レンズメーターや検影法など苦手克服	17・18	【授業単元】 3グループに分かれ、実習を行う  【授業形態】 実習  【到達目標】 ①遠視性乱視の自覚的屈折検査 ②異常視野を想定した視野検査(HFA・GP) 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。					
3・4	【授業単元】 3グループに分かれ、講義、演習を行う  【授業形態】 実習  【到達目標】 ①眼鏡処方 ②視野検査(HFA・GP) ③自覚的屈折検査 ④その他レンズメーターや検影法など苦手克服	19・20	【授業単元】 3グループに分かれ、実習を行う  【授業形態】 実習  【到達目標】 ①遠視性乱視の自覚的屈折検査 ②異常視野を想定した視野検査(HFA・GP) 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。					
5・6	【授業単元】 3グループに分かれ、講義、演習を行う  【授業形態】 実習  【到達目標】 ①眼鏡処方 ②視野検査(HFA・GP) ③自覚的屈折検査 ④その他レンズメーターや検影法など苦手克服	21・22	【授業単元】 3グループに分かれ、実習を行う  【授業形態】 実習  【到達目標】 ①遠視性乱視の自覚的屈折検査 ②異常視野を想定した視野検査(HFA・GP) 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。					
7・8	【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う  【授業形態】 実習  【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。	23・24	【授業単元】 3グループに分かれ、実習を行う  【授業形態】 実習  【到達目標】 ①遠視性乱視の自覚的屈折検査 ②異常視野を想定した視野検査(HFA・GP) 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。					
9・10	【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う  【授業形態】 実習  【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。	25・26	【授業単元】 3グループに分かれ、実習を行う、小テスト  【授業形態】 実習  【到達目標】 ①遠視性乱視の自覚的屈折検査 ②異常視野を想定した視野検査(HFA・GP) 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。					
11・12	【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う、小テスト  【授業形態】 実習  【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。 中間試験に向けての小テスト(筆記)を行う。	27・28	【授業単元】 3グループに分かれ、実習を行う、小テスト  【授業形態】 実習  【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。 定期試験に向けての小テスト(筆記)を行う。					
13・14	【授業単元】 実習、実技チェック、小テスト  【授業形態】 実習  【到達目標】 定期試験の実技試験を想定し、個別に実技チェックを行う。 中間試験に向けての小テスト(筆記)を行う。	29・30	【授業単元】 定期試験(筆記+実技)  【授業形態】 実習  【到達目標】 後期最後に定期試験に合格できるよう、手早く正確な視力検査ができる事を目指す。					
15・16	【授業単元】 中間試験(筆記)、実技チェック  【授業形態】 実習  【到達目標】 定期試験の実技試験を想定し、個別に実技チェックを行う。	【評価方法について】 中間試験(筆記のみ) 40% 定期試験(筆記+実技) 60% 筆記 60% 実技 40% 課題提出が提出期限に間に合わない場合実技試験から減点とする						
【特記事項】								
実習は検者、被検者のペアで行うため、遅刻・欠席のないように。 学んだ検査のレジュメは実習中、常に携帯すること。								



科目名 (英)	眼科学 I ( Ophthalmology I )	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	梶本美智子、三宅琢、吉田寛 相原久美、本田なほみ	
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 集中	
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 業界で活躍している講師が各回の講義を担当する。 この講義を通して、現場で視能訓練士として働くうえで眼科医や先輩視能訓練士から求められることを学んでほしい。								
【到達目標】 今までの基本知識を土台とし、臨床現場で求められることを知り、より臨床的に考えることができる。								
【使用教科書・教材・参考書】 視能学、視能矯正学、現代の眼科学、神経眼科診療のてびき、眼科検査ガイド他				【授業外における学習】				
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】小児眼科(内斜視・外斜視) 【授業形態】講義 【到達目標】 内斜視・外斜視の所見を踏まえ、より臨床的に考えることができる。	9	【授業単元】神経眼科 【授業形態】講義 【到達目標】 基本の知識を踏まえ、より臨床的に考えることができる。					
2	【授業単元】小児眼科(内斜視・外斜視) 【授業形態】講義 【到達目標】 内斜視・外斜視の所見を踏まえ、より臨床的に考えることができる。	10	【授業単元】神経眼科 【授業形態】講義 【到達目標】 基本の知識を踏まえ、より臨床的に考えることができる。					
3	【授業単元】小児眼科(弱視・眼鏡処方) 【授業形態】講義 【到達目標】 弱視の所見を踏まえ、より臨床的に考えることができる。	11	【授業単元】視野検査 【授業形態】講義 【到達目標】 基本の知識を踏まえ、より臨床的に考えることができる。					
4	【授業単元】小児眼科(弱視・眼鏡処方) 【授業形態】講義 【到達目標】 弱視の所見を踏まえ、より臨床的に考えることができる。	12	【授業単元】視野検査 【授業形態】講義 【到達目標】 基本の知識を踏まえ、より臨床的に考えることができる。					
5	【授業単元】ロービジョン 【授業形態】講義 【到達目標】 ICTを利用したロービジョンケア法を理解する。	13	【授業単元】斜視治療 【授業形態】講義 【到達目標】 基本の知識を踏まえ、より臨床的に考えることができる。					
6	【授業単元】ロービジョン 【授業形態】講義 【到達目標】 ICTを利用したロービジョンケア法を理解する。	14	【授業単元】斜視治療 【授業形態】講義 【到達目標】 基本の知識を踏まえ、より臨床的に考えることができる。					
7	【授業単元】神経眼科 【授業形態】講義 【到達目標】 基本の知識を踏まえ、より臨床的に考えることができる。	15	【授業単元】レポート作成 【授業形態】講義 【到達目標】					
8	【授業単元】神経眼科 【授業形態】講義 【到達目標】 基本の知識を踏まえ、より臨床的に考えることができる。		【評価方法について】 レポート (評価基準) ・規定が守られている(枚数、表紙など) ・期日が守られている					
【特記事項】								

科目名 (英)	眼疾生物学 I (Optthalmology I)	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	順天堂大学附属浦安病院眼科医局
学科・専攻	視能訓練士科	授業形態	講義	総時間(単位)	30時間(2)	開講区分曜日・時間	後期木曜日 4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
眼科医として豊富な実務経験を持つ医局員が、実際の医療現場で役に立つ知識の習得を目指し、授業を行う。							
【到達目標】 視覚器を構成する器官の解剖生理を学ぶ。 また、眼疾患のついて病因・病態・臨床所見・治療法・予後などを知る。							
【使用教科書・教材・参考書】 視能学、現代の眼科学、レジュメ、その他プリント配布				【授業外における学習】 分からぬ専門用語については授業後に復習しておくこと。			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】解剖 【授業形態】講義 【到達目標】 視覚器を構成する器官の解剖について述べられる。 眼に関連する神経系および血管系の解剖とその働きについて述べられる。	9	【授業単元】白内障 【授業形態】講義 【到達目標】 白内障を原因別に分類し、病態・臨床所見・治療法について述べられる。 白内障以外の水晶体疾患について、原因・病態・臨床所見・治療法をまとめることができる。				
2	【授業単元】視機能 【授業形態】講義 【到達目標】 視機能を評価する方法を学び、その目的と方法についてまとめることができる。	10	【授業単元】緑内障 【授業形態】講義 【到達目標】 緑内障 I :隅角の解剖、眼圧の生理を学ぶ。緑内障診断に必要な検査をまとめることができる。				
3	【授業単元】眼瞼・涙器 【授業形態】講義 【到達目標】 眼瞼・涙器・結膜の構造を学ぶ。 眼瞼・涙器・結膜疾患の原因・病態・臨床所見・治療方法についてまとめることができる。	11	【授業単元】緑内障 【授業形態】講義 【到達目標】 緑内障 II :原因疾患の有無、隅角所見などにより緑内障を分類し、それぞれの病態・臨床所見・治療・予後をまとめることができる。				
4	【授業単元】角膜 【授業形態】講義 【到達目標】 角膜・強膜の構造と生理、角膜検査の方法を学ぶ。 角膜・強膜疾患の原因・病態・臨床所見・治療法についてまとめることができる。	12	【授業単元】小児眼科 【授業形態】講義 【到達目標】 小児眼科:弱視・斜視の原因・臨床所見を学び、眼の先天異常について病態・臨床所見をまとめることができる。				
5	【授業単元】ぶどう膜 【授業形態】講義 【到達目標】 ぶどう膜の解剖・生理を学ぶ。 ぶどう膜疾患の原因・病態・臨床所見・治療法についてまとめることができる。	13	【授業単元】外傷 【授業形態】講義 【到達目標】 外傷:外傷による視覚器の障害について病態・臨床所見・治療法をまとめることができる。				
6	【授業単元】網膜・硝子体 【授業形態】講義 【到達目標】 網膜・硝子体の構造と生理を学ぶ。網膜・硝子体検査の方法を学ぶ。 網膜・硝子体疾患の原因・病態・臨床所見・治療法を知る。	14	【授業単元】全身疾患と眼 【授業形態】講義 【到達目標】 全身疾患と眼:眼に影響を及ぼす全身疾患の病態・臨床所見・治療法についてまとめることができる。				
7	【授業単元】網膜・硝子体 【授業形態】講義 【到達目標】 網膜・硝子体疾患の原因・病態・臨床所見・治療法についてまとめることができる。	15	【授業単元】総括 【授業形態】講義 【到達目標】 レポート提出				
8	【授業単元】水晶体 【授業形態】講義 【到達目標】 水晶体の構造・生理を学び、まとめることができる。		【評価方法について】 評価はレポート提出で行う。授業内で確認した専門的な知識の理解を確認する。評価は学則規定に準ずる。				
【特記事項】 臨床現場における最新の知識を習得する機会です。積極的な態度で参加してください。							



科目名 (英)	視能訓練学 (Advanced Orthoptics)	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	鈴木 まゆ	
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 4時限	
【授業の学習内容と心構え】								
視能訓練士として経験を積んできた教員が網膜対応検査をはじめとする両眼視機能検査の理論と実際を教える。授業を通して両眼視機能を理解し、正しく検査することと評価することが出来るようになる。また、この授業は後期の視能矯正学実習に繋がるものとなる。								
【到達目標】								
網膜正常対応と網膜異常対応を理解し、評価できる。 立体視検査の原理と評価を理解する。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
視能学、視能矯正学、眼科検査ガイド、眼科検査法ハンドブック								
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】両眼視機能 【授業形態】講義 【到達目標】 両眼視の生理を学び、成立機所を理解する。 正常両眼視を理解する。 パナムの融像感覚図(復習) 正常両眼視の成立条件(復習)	9	【授業単元】網膜対応検査の種類と評価⑥ 【授業形態】講義 【到達目標】 網膜対応検査の原理を理解する。 網膜対応の判定が出来るようになる。					
2	【授業単元】網膜対応の種類と定義① 【授業形態】講義 【到達目標】  正常網膜対応と網膜対応異常を理解する。	10	【授業単元】立体視検査と原理① 【授業形態】講義 【到達目標】  立体視検査の目的および各々の検査原理を理解する。 また評価法を学び、正常と異常の判断が出来るようになる。					
3	【授業単元】網膜対応の種類と定義② 【授業形態】講義 【到達目標】  正常網膜対応と網膜対応異常を理解する。	11	【授業単元】立体視検査と原理② 【授業形態】講義 【到達目標】  立体視検査の目的および各々の検査原理を理解する。 また評価法を学び、正常と異常の判断が出来るようになる。					
4	【授業単元】網膜対応検査の種類と評価① 【授業形態】講義 【到達目標】  網膜対応検査の原理を理解する。 網膜対応の判定が出来るようになる。	12	【授業単元】立体視検査と原理③ 【授業形態】講義 【到達目標】  立体視検査の目的および各々の検査原理を理解する。 また評価法を学び、正常と異常の判断が出来るようになる。					
5	【授業単元】網膜対応検査の種類と評価② 【授業形態】講義 【到達目標】  網膜対応検査の原理を理解する。 網膜対応の判定が出来るようになる。	13	【授業単元】立体視検査と原理④ 【授業形態】講義 【到達目標】  立体視検査の目的および各々の検査原理を理解する。 また評価法を学び、正常と異常の判断が出来るようになる。					
6	【授業単元】網膜対応検査の種類と評価③ 【授業形態】講義 【到達目標】  網膜対応検査の原理を理解する。 網膜対応の判定が出来るようになる。	14	【授業単元】立体視検査と原理⑤ 【授業形態】講義 【到達目標】  立体視検査の目的および各々の検査原理を理解する。 また評価法を学び、正常と異常の判断が出来るようになる。					
7	【授業単元】網膜対応検査の種類と評価④ 【授業形態】講義 【到達目標】  網膜対応検査の原理を理解する。 網膜対応の判定が出来るようになる。	15	【授業単元】復習と試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】  定期試験					
8	【授業単元】網膜対応検査の種類と評価⑤ 【授業形態】講義 【到達目標】  網膜対応検査の原理を理解する。 網膜対応の判定が出来るようになる。	【評価について】 定期試験:100点満点 実施方法:筆記試験 授業内で確認した専門的な知識の理解を確認する。 評価は学則規定に準ずる。						
【特記事項】								

科目名 (英)	視能訓練学(訓練・手術) (Advanced orthoptics)	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	常盤 純子
		授業形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 1・2時限
学科・専攻	視能訓練士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
視能訓練士として大学病院で経験を積み、視機能療法の研究に携わってきた教員が、斜視・弱視訓練、外眼筋手術をはじめとする治療を教える。斜視・弱視の要因と病態をしっかり理解した上で授業に臨むことが必要である。外眼筋手術に於いては、眼球運動(外眼筋の作用)をしっかり復習したうえで臨んでほしい。							
【到達目標】							
斜視・弱視訓練の原理を理解した上で適応となる訓練方法を選択できる。 外眼筋手術の合併症を理解した上で適応となる術式を選択できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
視能学、視能矯正学、レジュメ等				斜視や弱視の基本的知識を理解した上で訓練学である。1年次や前期で学んだ内容を復習しておくことが望ましい。			
回	授業概要	回	授業概要				
1・2	【授業単元】弱視(復習) 【授業形態】講義 【到達目標】 小児視覚の特徴(復習) 弱視の発生機序と特徴(復習)	17・18	【授業単元】外眼筋手術 【授業形態】講義 【到達目標】 斜視手術に必要な解剖を説明できる。 斜視手術の目的・原理・方法を説明できる。 弱化術、強化術、移動術の種類と適応を説明できる。				
3・4	【授業単元】弱視訓練 【授業形態】講義 【到達目標】 弱視訓練の種類と方法・原理を説明できる。 遮閉法の目的・方法を学び、遮閉法の副作用・禁忌を説明できる。	19・20	【授業単元】外眼筋手術 【授業形態】講義 【到達目標】 弱化術、強化術、移動術の方法と適応を説明できる。				
5・6	【授業単元】弱視訓練 【授業形態】講義 【到達目標】 弱視訓練の種類と方法・原理を説明できる。 Moore-Johnson法、Penalization法等の目的・原理・方法を説明できる。	21・22	【授業単元】外眼筋手術 【授業形態】講義 【到達目標】 特殊斜視の術式を理解し選択できる。				
7・8	【授業単元】弱視訓練 【授業形態】講義 【到達目標】 弱視訓練の種類と方法・原理を説明できる。 偏心固視を伴う弱視の訓練の原理・方法を説明できる。	23・24	【授業単元】外眼筋手術 【授業形態】講義 【到達目標】 麻痺性斜視の術式を理解し選択できる。				
9・10	【授業単元】斜視訓練 【授業形態】講義 【到達目標】 斜視訓練の種類と方法・原理を説明できる。 大型弱視鏡による抑制除去訓練・網膜異常対応矯正訓練の目的・原理・方法を学び症例に合わせて選択できる。	25・26	【授業単元】外眼筋手術 【授業形態】講義 【到達目標】 眼振手術を理解し選択できる。				
11・12	【授業単元】斜視訓練 【授業形態】講義 【到達目標】 斜視訓練の種類と方法・原理を説明できる。 大型弱視鏡による抑制除去訓練・網膜異常対応矯正訓練の目的・原理・方法を学び症例に合わせて選択できる。	27・28	【授業単元】外眼筋手術 【授業形態】講義 【到達目標】 斜視手術の合併症を説明できる。				
13・14	【授業単元】斜視訓練 【授業形態】講義 【到達目標】 斜視訓練の種類と方法・原理を説明できる。 立体視訓練、眼球運動訓練の目的・原理・方法を学び症例に合わせて選択できる。	29・30	【授業単元】復習と試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 29:復習 30:定期試験				
15・16	【授業単元】斜視訓練 【授業形態】講義 【到達目標】 15:中間試験 16:外眼筋の解剖を説明できる。 外眼筋手術の適応と禁忌を説明できる。	【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。授業で確認した専門的な知識の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。					
【特記事項】							
毎週小テストを実施する。							

科目名 (英)	視能矯正学実習 II (Practical Training in Orthoptics II)	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	鈴木 まゆ・常盤 純子・露無 陽子			
		授業形態	実習	総時間(単位)	60時間(2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 1~2限			
	学科・専攻 視能訓練士科									
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】										
<p>実務経験のある視能訓練士複数によるチームごとの指導を行う。臨床の現場で求められる検査の理論、技術を学ぶ。</p> <p>医療從事者と患者間のコミュニケーションの取り方、疾患の診断治療に与える検査結果の重要性を理解し責任ある検査を目指す。</p> <p>チームごとの実習となるため遅刻や欠席がないように体調管理を怠らない。配布されたレジュメの見直しを怠らず身につけていく。</p>										
【到達目標】										
<p>眼位検査の基礎を復習し身に着けたうえで非共同性の眼位検査に必要な検査を学ぶ。</p> <p>斜視を分類するための検査を学ぶ。</p> <p>課される実習課題やレポートなど提出期限を守る。</p>										
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】						
眼科検査ガイド 視能学 視能矯正学 配布レジュメ				配布されたレジュメを読み返す。検査ごとのファイルを作成し数多くの検査について調べやすい工夫をする。						
回 授業概要				回 授業概要						
1・2	【授業単元】 運動面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 行った検査結果を正しく記載できる。 ①眼位検査の復習 ②大型弱視鏡(△角含む) ③診断的むき眼位・輻辏近点・9方向眼位写真			17・18	【授業単元】 運動面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 異常な結果を読み取ることができる。 ①頭部傾斜試験 ②異常を想定した大型弱視鏡での9方向眼位 ③異常を想定したHESS赤緑試験					
					【授業単元】 運動面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 異常な結果を読み取ることができる。 ①頭部傾斜試験 ②異常を想定した大型弱視鏡での9方向眼位 ③異常を想定したHESS赤緑試験					
3・4	【授業単元】 運動面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 行った検査結果を正しく記載できる。 ①眼位検査の復習 ②大型弱視鏡(△角含む) ③診断的むき眼位・輻辏近点・9方向眼位写真			19・20	【授業単元】 運動面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 異常な結果を読み取ことができる。 ①頭部傾斜試験 ②異常を想定した大型弱視鏡での9方向眼位 ③異常を想定したHESS赤緑試験					
					【授業単元】 運動面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 異常な結果を読み取ることができる。 ①頭部傾斜試験 ②異常を想定した大型弱視鏡での9方向眼位 ③異常を想定したHESS赤緑試験					
5・6	【授業単元】 運動面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 行った検査結果を正しく記載できる。 ①眼位検査の復習 ②大型弱視鏡(△角含む) ③診断的むき眼位・輻辏近点・9方向眼位写真			21・22	【授業単元】 運動面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 異常な結果を読み取ることができる。 ①頭部傾斜試験 ②異常を想定した大型弱視鏡での9方向眼位 ③異常を想定したHESS赤緑試験					
					【授業単元】 運動面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 異常な結果を読み取ることができる。 ①頭部傾斜試験 ②異常を想定した大型弱視鏡での9方向眼位 ③異常を想定したHESS赤緑試験					
7・8	【授業単元】 運動面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 行った検査結果を正しく記載できる。 ①プリズムを使用した9方向眼位 ②大型弱視鏡での9方向眼位 ③HESS赤緑試験			23・24	【授業単元】 ベアを決め検査をする 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院検査室をイメージし患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を見につける。					
					【授業単元】 ベアを決め検査をする 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院検査室をイメージし患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を見につける。					
9・10	【授業単元】 運動面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 行った検査結果を正しく記載できる。 ①プリズムを使用した9方向眼位 ②大型弱視鏡での9方向眼位 ③HESS赤緑試験			25・26	【授業単元】 ベアを決め検査をする 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院検査室をイメージし患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を見につける。					
					【授業単元】 ベアを決め検査をする 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院検査室をイメージし患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を見につける。					
11・12	【授業単元】 運動面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 行った検査結果を正しく記載できる。 ①プリズムを使用した9方向眼位 ②大型弱視鏡での9方向眼位 ③HESS赤緑試験			27・28	【授業単元】 ベアを決め検査をする、小テスト 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院検査室をイメージし患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を見につける。 定期試験に向けての筆記小テストを行う。					
					【授業単元】 ベアを決め検査をする、小テスト 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院検査室をイメージし患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を見につける。 定期試験に向けての筆記小テストを行う。					
13・14	【授業単元】 ベアを決め検査をする、実技チェック、小テスト 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院検査室をイメージし患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を見につける。 個別実技チェックを行い定期試験の実技試験を模擬体験する。 中間試験に向けての筆記小テストを行う。			29・30	【授業単元】 定期試験(筆記+実技)、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 筆記試験は別時間を設け行う。 臨床実習に出るための実習生としての身なり、マナーを身につける。					
					【評価方法について】 中間試験(筆記) 40% 定期試験 60% 定期試験内容 筆記試験60%(別日) 実技試験40% 課題提出が提出期限に間に合わなかった場合、実技試験から減点とする。					
15・16	【授業単元】 中間試験(筆記)、実技チェック、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 検査の手順を覚え結果を出し、カルテ記載ができる。									
【特記事項】										
実習は検者、被検者のペアで行うため遅刻欠席のないよう、学んだ検査のレジュメは実習中常に携帯すること。										

科目名 (英)	視能矯正学実習Ⅱ (Practical Training in Orthoptics II)	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	鈴木 まゆ・常盤 純子・露無 陽子						
		授業形態	実習	総時間(単位)	60時間(2)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 1~2限						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】													
実務経験のある視能訓練士複数によるチームごとの指導を行う。臨床の現場で求められる検査の理論、技術を学ぶ。 医療従事者と患者間のコミュニケーションの取り方、疾患の診断治療に与える検査結果の重要性を理解し責任ある検査を目指す。 チームごとの実習となるため遅刻や欠席がないように体調管理を怠らない。配布されたレジュメの見直しを怠らず身につけていく。													
【到達目標】													
網膜対応、立体視 AC/A比 の検査方法、記載方法。 課される実習課題やレポートなど提出期限を守る。													
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】									
眼科検査ガイド 視能学 視能矯正学 配布レジュメ				配布されたレジュメを読み返す。検査ごとのファイルを作成し数多くの検査について調べやすい工夫をする。									
回 授業概要				回 授業概要									
1・2	【授業単元】 感覚面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 行った検査結果を正しく記載できる。 ①眼位検査の復習、プリズムを使用した幅狭・開散幅の測定 ②網膜対応検査 ③立体視			17・18	【授業単元】 運動面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する AC/A比								
					【授業単元】 ペアを決め検査をする 【授業形態】 実習 【到達目標】 AC/A比 ペアを決め検査をする 病院検査室をイメージし患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を見につける。								
3・4	【授業単元】 感覚面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 行った検査結果を正しく記載できる。 ①眼位検査の復習、プリズムを使用した幅狭・開散幅の測定 ②網膜対応検査 ③立体視			19・20	【授業単元】 ペアを決め検査をする 【授業形態】 実習 【到達目標】 AC/A比 ペアを決め検査をする 病院検査室をイメージし患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を見につける。								
					【授業単元】 ペアを決め検査をする 【授業形態】 実習 【到達目標】 課された課題を行う。 病院検査室をイメージし患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を見につける。								
5・6	【授業単元】 感覚面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 行った検査結果を正しく記載できる。 ①眼位検査の復習、プリズムを使用した幅狭・開散幅の測定 ②網膜対応検査 ③立体視			21・22	【授業単元】 ペアを決め検査をする 【授業形態】 実習 【到達目標】 課された課題を行う。 病院検査室をイメージし患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を見につける。								
					【授業単元】 ペアを決め検査をする 【授業形態】 実習 【到達目標】 課された課題を行う。 病院検査室をイメージし患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を見につける。								
7・8	【授業単元】 感覚面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 異常な結果を読み取ることができる。 ①眼位検査の復習 ②異常を想定した網膜対応検査 ③異常を想定した立体視			23・24	【授業単元】 ペアを決め検査をする 【授業形態】 実習 【到達目標】 課された課題を行う。 病院検査室をイメージし患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を見につける。								
					【授業単元】 ペアを決め検査をする 【授業形態】 実習 【到達目標】 ①ダブルマドックス ②眼位検査の課題 ③大型弱視鏡の課題								
9・10	【授業単元】 感覚面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 異常な結果を読み取ることができる。 ①眼位検査の復習 ②異常を想定した網膜対応検査 ③異常を想定した立体視			27・28	【授業単元】 ペアを決め検査をする、小テスト 【授業形態】 実習 【到達目標】 ①ダブルマドックス ②眼位課題 ③大型弱視鏡課題								
					【授業単元】 ペアを決め検査をする、小テスト 【授業形態】 実習 【到達目標】 ①ダブルマドックス ②眼位課題 ③大型弱視鏡課題								
11・12	【授業単元】 感覚面からの検査 【授業形態】 実習 【到達目標】 班ごとに検査説明を聞き実習する 異常な結果を読み取ることができる。 ①眼位検査の復習 ②異常を想定した網膜対応検査 ③異常を想定した立体視			29・30	【授業単元】 定期試験(筆記+実技)、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 筆記試験は別時間を設け行う。 臨床実習に出るための実習生としての身なり、マナーを身につける。								
					【評価方法について】 中間試験(筆記) 40% 定期試験 60% 定期試験内容 筆記試験60%(別日) 実技試験40% 課題提出が提出期限に間に合わなかった場合、実技試験から減点とする。								
【特記事項】													
実習は検者、被検者のペアで行うため遅刻欠席のないよう、学んだ検査のレジュメは実習中常に携帯すること。													

科目名 (英)	医療現場学(実践)<ロービジョン> (Orthoptist and Medical Setting)	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	塩田直子 岡崎あずさ
		授業形態	講義・演習	総時間(単位)	30時間(2)	開講区分	後期 曜日・時間
学科・専攻	視能訓練士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・構成】							
岡崎あずさ：歩行訓練士 国立リハビリテーション病院眼科、日本視覚障害者職能開発センター勤務。視覚リハビリテーションの専門家。 同行援護従業者養成研修一般を行う。ガイドヘルパーの資格を取得する。講義演習を通じ、視覚障害者の命と生きがいを守る仕事について理解し、視覚障害者への接し方を学ぶ。遅刻、欠席があると資格は取れない。体調を整え、授業、演習に望んでください。							
【到達目標】 同行援護従業者の資格取得。							
【使用教科書・教材・参考書】 同行援護従業者養成研修テキスト第4版				【授業外における学習】 演習			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】 視覚障害者福祉の制度とサービス 【授業形態】 講義 【到達目標】 福祉制度の日本と世界の流れを理解する	9	【授業単元】 基礎技能(屋内演習) 【授業形態】 演習 【到達目標】 狹所通過～椅子への案内～階段～ドア通過				
2	【授業単元】 同行援護の制度 【授業形態】 講義 【到達目標】 同行援護の制度について学ぶ	10	【授業単元】 代読・代筆の基礎知識 【授業形態】 講義 【到達目標】 代読・代読の基礎を学ぶとともに、個人情報について、自己決定の大切さと方保を学ぶ。				
3	【授業単元】 同行援護従業者の業務と倫理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 業務について理解する 職業倫理について、学び、ロールプレイングで身につける	11	【授業単元】 情報提供・代読代筆の演習 【授業形態】 演習 【到達目標】 お見舞いの場面を想定し、室内のガイド歩行、買い物、代読・代筆を演習する。				
4	【授業単元】 障害・疾病の理解 【授業形態】 講義 【到達目標】 疾患・年齢別の視覚障害の特性を知る	12	【授業単元】 基礎技能(屋外演習) 【授業形態】 演習 【到達目標】 戸外の歩行とエスカレーター				
5	【授業単元】 障害者の心理 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 受傷年齢、疾患の進行による当事者の心理を知る	13	【授業単元】 基礎技能(屋外演習) 【授業形態】 演習 【到達目標】 戸外の歩行とエスカレーター				
6	【授業単元】 情報支援と情報提供 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 情報提供の意味と方法を知る 演習を通じて身につける	14	【授業単元】 基礎技能(屋外演習) 【授業形態】 演習 【到達目標】				
7	【授業単元】 同行援護の基礎知識 【授業形態】 講義 【到達目標】 同行援護でしてはいけないこと、気をつけることなどを場面別に理解する	15	【授業単元】 iSee Working Awardに向けてのレポートの提出と発表 【授業形態】 演習 【到達目標】 前期かの課題であるレポートを完成させ、発表する				
8	【授業単元】 基本技能(屋内) 【授業形態】 演習 【到達目標】 基本の姿勢～段差の通過～またぐ動作	【評価方法について】 1、同行援護従業者養成研修 * 講義・演習の都度レポートを提出。レポートの提出、内容から理解度を把握する。 * 資格の取得の可否で評価する。 2、iSee Working Awardにプランを提出するためのレポートの作成と発表。					
【特記事項】 別途カリキュラム表を配布予定。 7月30日、31日8月1日の3日間の集中講義							

科目名 (英)	医療現場学(実践)(画像) (Orthoptist and Medical Setting)	必修選択 授業形態	必修 講義・演習	年次 総時間 (単位)	2年 30時間 (2)	担当教員 開講区分 曜日・時間	藤掛福美 金上千佳					
	学科・専攻 視能訓練士科						後期					
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 前期で習得した画像機器の手技を基に臨床現場の実際を体験するべく、経験豊富な講師陣と共に様々な研究会及び学会へ参加したり、企業のショールームにて最新機器を使うことにより、臨床現場においてどのように画像が使われているか、どのような意味があるのかを体験する。また、手技をさらに磨き現場で役立てるようになるよう指導する。												
【到達目標】 画像検査の必要性を理解し、技術向上を目指す。												
【使用教科書・教材・参考書】 配布資料、眼科検査ガイド				【授業外における学習】 プロの撮影した画像をたくさん見ること。また、各自最新機器情報を得るようにする。								
回 授業概要				回 授業概要								
1~4 【授業単元】日本眼科写真協会研究会参加(予定) 【授業形態】演習 【到達目標】 画像検査を専門としているプロ集団、日本眼科写真協会の研究会に参加し、臨床現場での画像検査の役割を体験する。(日程未定)				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
5~11 【授業単元】日本臨床眼科学会参加(予定) 【授業形態】演習 【到達目標】 国内最大の学会、日本臨床眼科学会に参加し、様々な画像検査のインストラクションコースや企業主催のランチョンセミナーに参加し、学んだ知識をさらに向上させる。(日程未定)				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
12、13 【授業単元】企業訪問 【授業形態】演習 【到達目標】 画像機器メーカーのショールームに訪問し、様々な最新機器に触れる。(日程未定)				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
14、15 【授業単元】病院見学 【授業形態】演習 【到達目標】 臨床現場に出向き、蛍光眼底造影などの現場を見学する。(日程未定)				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【評価方法について】 出欠率、授業態度								
【特記事項】 積極的に様々な行事に参加し、体験する												

科目名 (英)	プロ養成講座Ⅱ (Career Development Ⅱ)	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	小川 久実
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 3時限
学科・専攻	視能訓練士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
視能訓練士としての現場経験もある教員が、社会に通用する視能訓練士を目指すために、現場で必要とされる知識を科目ごとに把握し、学生自らの思考力を高めていく授業を行う。視能訓練士のやりがいや重要性を見つけ、プロフェッショナルとして必要なことは何か考えながら受講してほしい。3年次に向けて、これまでの授業がどのように将来に繋がっているかを考える時間として欲しい。							
【到達目標】							
①現場で必要とされる知識を科目ごとに分類することができる。 ②保護者参観の準備を通して、適切な眼科の動線・患者対応を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
視能学、レジュメ、その他プリント配布				最適な解答を導き出すにあたり、まだ授業で習っていない分野も含まれるので、あらかじめ予習をしてくること。			
回 授業概要				回 授業概要			
1	【授業単元】専門基礎テスト 【授業形態】講義 【到達目標】 専門基礎テストの実施により、自身の学習到達度を把握とともに、課題と対策を示すことができる。			9	【授業単元】出題傾向分析 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ①提示された問題に対して自らの知識をもとに最適な解答を導き出すことができる。 ②教科分類が出来るようになる。		
					【授業単元】中間試験・解説 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 授業で学んだ内容が定着できている。		
2	【授業単元】2年次の流れを確認する・臨地実習報告準備 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 2年次の流れを知ることで、行うべき事を明確にする。 臨地実習報告の準備をする。			10	【授業単元】就職活動支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自己分析シートの作成ができる。		
					【授業単元】就職活動支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自己分析シートの作成ができる。		
3	【授業単元】臨地実習報告 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 各実習施設で注意されたことなどを共有し、改善法を考え発表する。			11	【授業単元】就職活動支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自己分析シートの作成ができる。		
					【授業単元】就職活動支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自己分析シートの作成ができる。		
4	【授業単元】臨地実習報告 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 各実習施設で注意されたことなどを共有し、改善法を考え発表する。			12	【授業単元】就職活動支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自己分析シートの作成ができる。		
					【授業単元】就職活動支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自己分析シートの作成ができる。		
5	【授業単元】出題傾向分析 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ①提示された問題に対して自らの知識をもとに最適な解答を導き出すことができる。 ②教科分類が出来るようになる。			13	【授業単元】就職活動支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自己分析シートの作成ができる。		
					【授業単元】就職活動支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自己分析シートの作成ができる。		
6	【授業単元】出題傾向分析 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ①提示された問題に対して自らの知識をもとに最適な解答を導き出すことができる。 ②教科分類が出来るようになる。			14	【授業単元】教えあい授業に向けての準備 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 教えあい授業に向けて、オリジナルのマニュアルを作成する。		
					【授業単元】教えあい授業に向けての準備 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 教えあい授業に向けて、オリジナルのマニュアルを作成する。		
7	【授業単元】出題傾向分析 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ①提示された問題に対して自らの知識をもとに最適な解答を導き出すことができる。 ②教科分類が出来るようになる。			15	【授業単元】教えあい授業に向けての準備 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 教えあい授業に向けて、オリジナルのマニュアルを作成する。		
					【評価方法について】 評価は中間試験(40点)、定期試験(60点)で行う。 中間試験評価は筆記試験で行う。 定期試験評価は課題提出(30点)と筆記試験(30点)で行う。 中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。		
8	【授業単元】出題傾向分析 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ①提示された問題に対して自らの知識をもとに最適な解答を導き出すことができる。 ②教科分類が出来るようになる。				【特記事項】 担任授業の時間となるため、シラバスに記載してある以外に諸連絡や授業アンケートなどを行う場合がある。		

科目名 (英)	プロ養成講座Ⅱ (Carrer Development Ⅱ)	必修選択	必修 講義	年次 総時間 (単位)	2年 30時間 (2)	担当教員 開講区分 曜日・時間	小川 久実 後期
		授業形態					
学科・専攻	視能訓練士科						火曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
視能訓練士として臨床で経験を積んできた教員が、社会に通用する視能訓練士を目指すために、3年次の就職活動で活かせる一般常識、社会人としてのマナーを習得する授業を行う。将来像を明確にし、3年次にいつでも動けるよう準備し、第一希望に就職できるよう積極的に学んでほしい。							
【到達目標】							
①就職までの流れを把握する。 ②印象に残る履歴書を準備することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
視能学、就職活動マニュアル、レジュメ等				就職活動の際には日頃の立ち振る舞いがにじみ出るので、日々の自分自身の立ち振る舞いを見直すようにする。			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】保護者参観準備 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 招待状の作成、流れの把握、検査項目の選択を行う。	9	【授業単元】中間試験・解説 【授業形態】講義 【到達目標】 前半で学んだ内容が定着している。				
2	【授業単元】保護者参観準備 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 招待状の作成、流れの把握、検査項目の選択を行う。	10	【授業単元】模擬履歴書の作成 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自己分析シートを基に履歴書(模擬)を作成する。				
3	【授業単元】保護者参観の振り返り 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 保護者参観からの学びを共有し、自らの課題を発見する。	11	【授業単元】模擬履歴書の作成 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自己分析シートを基に履歴書(模擬)を作成する。				
4	【授業単元】就職活動支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ①昨年度の就職状況と予測される今年度の就職状況について知る。 ②求人票の見方を理解する。	12	【授業単元】模擬履歴書の作成 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自己分析シートを基に履歴書(模擬)を作成する。				
5	【授業単元】就職活動支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ①業界から求められている人材について知る。 ②総合病院・個人病院・大学病院の違いと求められる人材について考える。	13	【授業単元】模擬履歴書の作成 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自己分析シートを基に履歴書(模擬)を作成する。				
6	【授業単元】就職活動支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ①就職模擬試験について ②リクルートスタイルと立ち振る舞いの確認	14	【授業単元】模擬履歴書の作成 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自己分析シートを基に履歴書(模擬)を作成する。				
7	【授業単元】就職活動支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ①就職模擬試験について ②試験準備:一般常識・SPIなど	15	【授業単元】定期試験・解説・次年度スケジュール説明 【授業形態】講義 【到達目標】 授業で学んだ内容が定着している。 履歴書を完成させ提出する。				
8	【授業単元】就職活動支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 模擬就職活動を体験し、優先順位の大切さを理解する。		【評価方法について】 評価は筆記試験と課題提出で行う。 中間試験40点と定期試験60点の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。				
【特記事項】							
担任授業の時間となるため、シラバスに記載してある以外に諸連絡や授業アンケートなどを行う場合があります。							